

大震災を振り返って

みずばしょう介護職員 今野 明美

日が経つにつれて普通の生活が戻りつつ、あの日の時に起きたことが過去となってしまうがちですが、過去とならぬよう今後再び自然災害は、いつ・どこで起きるか分からないので、災害時にはどのように行動すべきか振り返って考えなければならないと思います。

昨年10月に福島県で介護実践報告会がありまして研修に行かせていただき、大震災の経験をもとに講演会や事例報告会等がありました。中でも福島県は、原発の影響で避難区域内と区域外とでは明暗が分けられ、区域内では、地震・津波・原発事故・風評被害の4重苦のうえにグループホームの利用者は避難生活を余儀なくされ、さらに避難所を転々とすることによって高齢者の生活環境は大きなダメージを受け、半数以上の利用者は認知症状が悪化してしまいました。しかし、なじみの職員がそばにいることによりだんだんと安心され、職員もケアを続けることができたとのことでした。

この大震災で学んだことは、人と人の繋がりや地域ぐるみで支えあうこと、日ごろの訓練の重要さと事前に準備しておくことや設備を整えることの大切さです。

日ごろの心構えや備えができていれば、利用者を守ることができますし、私たちも落ち着いて行動できると思いました。私の親戚も渡波にいて被災し、地震直後はもうダメかもと思い心配しましたが何とか連絡が付き、周りは壊滅状態だがなんとか自宅と家族は無事とのことですが、孤立状態で何もなしのことでした。すぐさまうちの家族がビニール袋に水を入れ、灯油とわずかばかりの食料を届けに渡波まで二日間通いました。親戚はあの時の恩は一生忘れないと感謝されました。

災害時の助け合いの気持ちを私は一生大切にしていきたいと思えます。そして、今後とも利用者を守り、感謝されるようなケアをしていきたいと思えました。

はじめまして

みずばしょう介護職員 猪股 知子

はじめまして、「バルムなかにいだ」で働きたいという希望をかなえていただき1月16日より勤務しております。

私は、40年間の製造業務を終え、ハローワークの紹介によりJMTC古川教室で訪問介護2級の資格を取りました。若い頃から介護の仕事に興味があったので、介護員として働ける今の状況に幸せを感じています。でも、仕事はまだまだ半人前です。何をすることもひとつひとつ聞いてから行動しています。親切に教えてくれる先輩職員、フォローしてくれる先輩職員方に大変感謝しております。入居者様の笑顔にこたえられるよう、心のこもった介護をしていくのはもちろんのことですが、将来的には先輩職員方の「縁の下の力持ち」になれるような介護技術を身に付けられるよう、がんばります。

退社し家に帰るとぐったりですが、入居者様方と過ごせて楽しかったという気持ちが残っています。入居者様には「ゆったりと楽しく、安らぎのある暮らし」「自分でできる喜びと、生きがいのある暮らし」「地域の人々との交流を持ち、共に生きる暮らし」この三大理念の暮らしを過ごされませう、見守っていききたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

【3月行事予定】

1日 あくしゅ塾さんとのひな祭り

あくしゅ塾さんに来ていただき、歌や踊りで楽しくひな祭り会をします。

20日 避難訓練

定期開催の避難訓練を消防署の協力のもと行います。

31日 入居者様誕生会

3月生まれの入居者様の誕生会をお祝いします。91歳になられます。これからどうぞお元気で。

